

# 平成 24 年度(8-3 月期) 事業報告

8 月 1 日付で公益社団法人へ移行したことに伴い、公益社団法人としての初年度事業状況報告となります。

公益社団法人 日本滑空協会

# 平成 24 年度(8～3 月期)

## 事業報告

公益社団法人 日本滑空協会

本年度は、公益社団法人としての最初の事業年度となります。8月1日付で公益社団法人に移行登記したことに  
対応し、本報告は8月1日～翌3月31日までの期間に実施された事業報告となります。

### 総 括

当協会は、8月1日付移行登記により公益社団法人として新たにスタートすることとなり、法律上では、別の法人  
格として位置づけられることになりましたが、事業内容は概ね特例社団法人であった頃と変更することはありません  
でした。本年度目標として掲げた、各地滑空団体との連携強化について、航空法の一部改正に伴い、新たに創設  
された特定操縦技能審査制度への対応をはじめ、これまで以上に各地滑空団体との連携を図り、航空行政あるいは  
航空団体への働きかけを積極的に行いました。

また、財政面では、危機的状況に陥った平成23年度において、次年度以降の会費の値上げならびに試験員・立会  
人認定登録有料化への承認、各地滑空団体内での当協会会員加入活動等の会員各位のご理解ご協力により、本年  
度は財政基盤の立て直しの兆しが見えてきました。今後は、より安定的な財政基盤を構築するため、5年スパンの中  
期目標である、国内滑空スポーツ統括団体として滑空スポーツ愛好者をサポートし、航空スポーツ発展に寄与する  
連携体制強化、滑空スポーツの「安全」と「楽しさ」を向上し、滑空スポーツ愛好者の活動をローカルソア  
リングから野外飛行へ広げられるような活動支援を軸とした施策を継続し、より多くの滑空スポーツ愛好者に会員  
として当協会事業に参画していただく団体を目指します。

### ・ 滑空スポーツ統括普及に関する事業

#### 1. 調査：滑空場、滑空団体統計

2012年度における国内滑空団体のメンバー、滑空場、機材、飛行活動についての調査を年度末に実施。全国  
滑空団体に照会し、活動状況を調査。最終調査集計結果は、ホームページ、機関誌において順次報告をして  
いく。

#### 2. 航空関係諸団体との連携、相談答申

##### 2-1 空域関係

- ・ 第11回下総航空基地周辺飛行安全会同(2012.12.18 於海上自衛隊下総航空基地) 常務理事 甲賀大樹  
関東東部地区空域に関して、航空、陸上、海上各自衛隊飛行隊、警察、消防、使用事業、飛行団体、滑空  
団体関係者との間で情報交換をし、相互連携を図った。  
担当：常務理事 甲賀大樹
- ・ その他、航空自衛隊、警視庁、国公立大学等からの飛行自粛要請に対応し、適時、該当地域に係る滑  
空団体及び滑空場へ協力要請を実施。

##### 2-2 航空局関係

- ・ 実地試験実施細則の見直しに関するヒアリング(2012.8.31 於航空局会議室)  
7月に技量維持連絡会(5団体)ならびに使用事業者との間で実施されたものと同様のヒアリングを指定航  
空従事者養成施設設置団体に対して航空局担当官より行われた。  
担当：玉中宏明
- ・ 実地試験実施細則の見直しに関するアンケートの実施  
7月に行われたヒアリングを受けて、当協会より滑空関係団体ならびに関係者にアンケートを実施。同細  
則の見直しに対する要望を取り纏め、局に答申した。
- ・ 技能証明実地試験受験予定者調査の実施

東京航空局管内での技能証明実地試験受験予定者について、全国滑空団体の計画を取り纏め、同局へ報告。

## 2-3 FAI 委員会

FAI 国際滑空委員会(IGC)日本代表委員として常務理事 甲賀大樹ならびに丸山 毅氏を NAC である(一財)日本航空協会を通じて FAI に推薦、国際会議に派遣。

- ・ FAI 国際滑空委員会(IGC)総会(2013.3.1~2 於オランダ・アーネム)常務理事 甲賀大樹 出席

## 2-4 航空スポーツ連絡会(2013.3.14 於航空会館)

FAI の NAC である(一財)日本航空協会より国内統括団体として認定されている各種航空スポーツ 8 団体と国土交通省航空局安全部運航安全課(小型航空機安全対策)より構成され、FAI 関連の報告と各団体の年間活動報告を行った。

## 2-5 表彰関係

- ・ FAI 賞(受賞伝達式:2012.9.20「空の日」 於航空会館)  
ポール・ティサンディエ・ディプロマ:佐藤 淳造氏((公社)日本滑空協会)  
エア・スポーツ・メダル:万場 泰雄氏((社)長野県航空協会)
- ・ 日本記録樹立者表彰(2012.9.20「空の日」 於(一財)日本航空協会)  
表彰者:市川 展氏 (15m クラス一般)  
三旋点距離 2012.2.15 樹立 / 2012.6.18 認定  
500km 往復コース速度 2012.2.15 樹立 / 2012.6.18 認定

## 2-6 その他

- ・ LSA 勉強会(2012.12.6 2013.1.8 2013.2.4)  
昨今、海外では主流となりつつある LSA(Light Sport Aircraft)に関する勉強会を(一財)日本航空協会を中心に、航空局及び航空スポーツ統括団体と共同で月 1 回ほどのペースで開催。  
担当:常務理事 甲賀大樹

## 3. 情報発信

### 3-1 機関誌発行

国内外の滑空スポーツ事情、滑空クラブ等の活動報告を掲載。会員ならびに関係諸団体等に頒布。  
JSA INFO 298(2012.11 発行)、299(2013.3 発行)

### 3-2 HP 運営等

- ・ 各種イベント案内を掲載、定期的に会員専用ページにおいてホームページ版事務局便りの掲載を実施。
- ・ メーリングリスト等による会員をはじめ滑空関係団体への情報発信。

## 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

### 1. 日本滑空記章制度・操縦技量認定

国内滑空記章認定登録、交付業務

本年度(2012.8.1~2013.3.31)記章登録実績:( )内は年度内登録分のバッジ交付数

A 章 46 件(11) B 章 44 件(5) C 章 45 件(11) 銅章 25 件(7)

昨年度 8~3 月期登録実績と比べて登録数は増加しており、特に B 章、C 章の認定数の増加率が顕著であった。12 ヶ月単位(4 月~翌 3 月)での登録総数についても、2011 年と比べて 2012 年は 1 割強の増加となり、ここ数年減少傾向にあった登録実績において少し回復の兆しが見えてきている。

滑空記章試験員・FAI 滑空機公式立会人講習会(2012.12.8 於ウインクあいち)

試験員、立会人向け講習会を愛知において実施、20 名受講。

試験員・立会人の各章認定実績(2012.8.1~2013.3.31)

板倉増彦氏(9) 井上善雄氏(3) 内海敬三氏(9) 大山光男氏(8) 岡村治彦氏(1) 奥平光保氏(9)  
 小野一夫氏(1) 小野 淳氏(4) 折原正規氏(2) 加藤隆士氏(1) 吉瀬はるか氏(4) 榊原飛鳥氏(6)  
 佐々木 泉氏(5) 島田俊輔氏(9) 下平一晴氏(3) 菅原 壽氏(1) 田口 昇氏(4) 田中 廣氏(4)  
 都築位兆氏(16) 土屋宣幸氏(9) 中村則之氏(2) 中村治夫氏(4) 原田正道氏(4) 日口裕二氏(6)  
 深田 浩氏(6) 水川 毅氏(4) 三輪一弘氏(1) 八尾正孝氏(8) 山口一喜氏(1) 吉田 茂氏(3)  
 吉田正克氏(11) 和田捷征氏(2)

## 2. 指定航空従事者養成施設

グライダーパイロット(自家用、滑空機・上級)の養成 - 本年度は下記3コースを実施、3名が修了した。  
 (2012.4.1～7.31までの間に第2期まで実施したため、本年度は3期からとなる。)

期	訓練所	修了日	修了者	
3	宝珠花	8月8日	1	伊藤 怜
4	長野	11月8日	2	中村 力 三吉政道
5	関宿		-	コース中断

## 3. 講習会・セミナー

### 3-1 滑空スポーツ講習会 2012

「グライダースポーツをより楽しく安全に生涯に亘って続けるために」の視点から、グライダースポーツに関連の深い分野について専門的かつ独自性の高いテーマでの講義を実施。

7月に長野において実施した同講習会のテーマをベースに、ウェーブフライトの基礎知識に重点を置き、ウェーブフライトの理解を深めることを目的とした。

第2回 愛知(2012.12.8 於ウィンクあいち)

テーマ：ウェーブフライト(今シーズンの報告と今後の可能性)

実際のフライト記録を基に当時の天候、コース取り等、ウェーブフライトのポイントを解説、当時のフライト状況を考察することで今後の長野でのウェーブフライトのさらなる可能性を探るとともに、北アルプスを境に同じ飛行空域でもある飛騨地方からの実践的アプローチについても解説。

講師：小高 功氏、茂田慶一氏、万場泰雄氏

受講者：22名

### 3-2 安全飛行大会 2012(2012.11.10～12 於妻沼滑空場)

異常姿勢からの回復トレーニングをASK-21を2機使用し、飛行機曳航により3,000フィート及び2,000フィート上空で各フライトを実施。ストールからスピンに入れ、回復させる体験、ループ、上昇反転、レイジエイトなどの曲技課目体験、通常より高い進入からの着陸トレーニングなどを行った。飛行トレーニングとともに1時間の座学を実施した。

教官：中村暢宏、熱海尚裕 実施責任者：常務理事 甲賀大樹

受講者：20名

なお、11/12は悪天候のため実施中止とした。

### 3-3 航空安全講習会(技量維持連絡会)

- 国土交通省航空局通達による“自家用操縦士の技量維持に係るガイドライン”に基づく全26回講習会のうち当協会主催講習会は7回(うち1回は7月に開催)講師総数77名のうち当協会推薦認定講師として28名が登録。

講習会運営にあたり(公社)日本航空機操縦士協会を中心として、当協会他、(社)日本飛行連盟、NPO法人AOPA-JAPAN、NPO法人全日本ヘリコプター協議会が技量維持連絡会を構成し、定期的に連絡会議を行い講習会の企画、実施にあたっている。(技量維持連絡会：2012.12.13(第1回は7月に開催。))

日 時	開催地	受講者数	講師 / 講義タイトル
12・9	北海道	33	吉田 徹氏 (招聘) 「トピックス(特定操縦技能を含む法改正、管制方式基準改正等)」 「最近の事故傾向；事故の遠因を考える」 日口裕二氏「グライダーの飛行に必要な知識 ～ 特定操縦技能審査に関連して～」
12・16	長野	25	吉田 徹氏 (招聘) 「トピックス(特定操縦技能を含む法改正、管制方式基準改正等)」 「最近の事故傾向；事故の遠因を考える」 玉中宏明氏「有視界飛行方式に関する諸規則」
1・5	静岡	36	吉田 徹氏 (招聘) 「トピックス(特定操縦技能を含む法改正、管制方式基準改正等)」 本多正明氏「滑空機の安全対策の再確認」 大野木 忍氏「お天気入門」
1・12	愛知	60	吉田 徹氏 (招聘) 「トピックス(特定操縦技能を含む法改正、管制方式基準改正等)」 「最近の事故傾向；事故の遠因を考える」 吉田 茂氏「パイロットの為の航空工学」
1・13	三重	19	吉田 徹氏 (招聘) 「トピックス(特定操縦技能を含む法改正、管制方式基準改正等)」 「最近の事故傾向；事故の遠因を考える」 野田迪郎氏「操縦士が留意すべき滑空機運航の安全対策」

- ・ 特定操縦技能審査制度への対応

航空法の一部改正により平成 26 年 4 月より本施行される、特定操縦技能審査制度に関係し、滑空界内の同制度への準備状況等をアンケート形式で全国滑空団体及び関係者(滑空記章試験員ならびに認定講師)に調査し、滑空界全体での対応を図る体制作りを進めた。アンケート結果を基に、同審査における口述ガイダンス(上級滑空機・動力滑空機)についての共通資料を作成し、平成 25 年度からの航空安全講習会教本に掲載されることになった。

## 滑空スポーツ競技会に関する事業

### 1. 競技会後援、支援

#### 当協会名義後援競技会

- ・ 第 16 回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 (2012.8.8～16 於埼玉県・妻沼滑空場)  
団体・個人優勝者へ賞状授与 (滑空奨励賞)  
(団体) 原田覚一郎杯 (優勝): 青山学院大学 A チーム (個人) 最優秀選手賞: 和田祐樹 (中央大学)
- ・ 第 15 回東京六大学対抗グライダー競技会 (2012.9.15～22 於埼玉県・妻沼滑空場)  
団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与 (公益社団法人 日本滑空協会賞)  
(団体) 優勝: 慶應義塾大学 (個人) 優勝: 伊藤敦規 (慶應義塾大学)
- ・ 2012 年霧ヶ峰グライダー競技会 (2012.9.9～10.7: 左記期間中の 10 日間 於長野県・霧ヶ峰滑空場)  
最優秀選手(1 部競技)へ賞状授与 (滑空奨励賞)  
1 部競技・優勝: 高野 肇
- ・ 第 15 回全日本学生グライダー新人競技大会 (2012.10.4～9 於岐阜県・木曾川滑空場)  
団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与 (公益社団法人 日本滑空協会賞)  
(団体) 優勝: 慶應義塾大学 (個人) 優勝: 安達拓人 (早稲田大学)
- ・ 第 52 回全国七大学総合体育大会航空の部 (2013.2.20～26 於千葉県・関宿滑空場)

- 大会審判委員長として常務理事 坂井正一郎が就任  
 団体・個人優勝者へ賞状授与(滑空奨励賞)  
 (団体) 優勝:名古屋大学 (個人) 優勝:堀 雄一(名古屋大学)
- ・第53回全日本学生グライダー競技選手権大会(2013.3.2~10 於埼玉県・妻沼滑空場)  
 大会顧問として常務理事 甲賀大樹が就任  
 団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与(公益社団法人 日本滑空協会賞)  
 (団体) 優勝:慶應 YS チーム(慶應義塾大学) (個人) 優勝: 剣田将孝(東京大学)
  - ・第42回早慶対抗グライダー競技会(2013.3.12~18 於埼玉県・妻沼滑空場)  
 団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与(公益社団法人 日本滑空協会賞)  
 (団体) 優勝:慶應義塾大学 (個人) 優勝:伊藤敦規(慶應義塾大学)

## 2. 国際競技会選手派遣 / 出場支援・結果報告

### 2-1 国際競技会結果報告

- ・第32回FAI世界滑空選手権大会(32<sup>nd</sup> FAI World Gliding Championship 2012)  
 (8/5~18 於アメリカ合衆国・ユババルディ)  
 15m Class 12位:市川 展(Diana 2)/37名
- ・第15回グライダー曲技世界選手権大会(15<sup>th</sup> FAI World Glider Aerobatic Championships 2012)  
 (8/9~18 於スロバキア共和国・ドブニツア)  
 10位:梶 智就(Solo Fox SP-8000)/27名

### 2-2 国際競技会選手派遣

- ・第17回欧州滑空選手権大会(17<sup>th</sup> FAI European Glider Championships)  
 (2013.7.6~20 於ポーランド ウヘルスキー オストロ)  
 スタンダードクラスへ出場選手として、市川 展選手と丸山 毅選手の推薦、派遣承認申請をFAI NAC  
 である(一財)日本航空協会に行った。

## . 法人管理業務

### 1. 法人管理業務

8月1日付で公益社団法人への移行登記をし、移行後の体制整備を図る。

### 2. 本年度開催会議

- |     |   |
|-----|---|
| 総会  | 全1回(臨時2012.9.29)<br>・公益社団法人への移行に伴う旧法人最終事業年度(平成24年4-7月期)決算承認 ほか  |
| 理事会 | 全2回(第1回2012.9.1 第2回2013.2.9)<br>・第1回:公益社団法人への移行に伴う旧法人最終事業年度(平成24年4-7月期)決算承認 ほか<br>・第2回:平成25年度事業計画および収支予算承認 ほか |

### 3. 会員情報

本年度(2012.8.1~2013.3.31)入会者数 10名(正会員10名 Jr.正会員1名)  
 2013.3.31現在登録会員総数 617名(団体:5 個人正会員:607名 個人Jr.正会員:5名)

以上